

◇はじめに

第3ターム term（11年目～15年目）の教育構想

『夢かなう道』Dream Road	第Ⅰ期(夢つかむ)	第Ⅱ期(夢ふくらむ)	第Ⅲ期(夢はばたく)
-------------------	-----------	------------	------------

令和6年度は、開校11年目、全校児童数567名でのスタートとなる。

『生徒の夢は学校の目標』を目指し、特色ある教育課程、学校行事などを計画に沿って実施し、私立学校としての独自性を出しながら、基礎基本の力の定着を図り、思考力・判断力・表現力の涵養を目指す。

今年度は、第3ターム（11年目～15年目）の1年目として、これまでの教育実践を整理し、学校行事や学年活動を展開して、夢の追求そして実現を目指す。

1. 「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」に基づく実践

本校は私学であり、社会や保護者のニーズに応えるよう不断の努力をすることが、本校発展に不可欠であることを自覚すること。

創立の理念を踏まえ、本校の教育活動の根本をなす「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」を最重要視し、全教職員が十分理解会得し、日々のあらゆる教育活動を通じて、その精神ならびに経営方針に基づく実践に向けて、全員一丸となって協力し、努力研鑽を重ねながら実現すること。

◇教育理念・教育目標

「心豊かなリーダーの育成」

将来のグローバル社会に貢献できる有為な人材の育成を教育目標とする。

◇教育方針

個性を尊重し、一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、人間教育に重きを置き、他を思い遣る豊かな心を育てる。

小・中・高の12カ年一貫教育を通して、『規律ある進学校』として、「心力」「学力」「体力」のバランスのとれた三位一体の教育を行う。

また「生徒の夢は学校の目標」を合言葉に、夢の実現に向けて努力を重ねる児童を、教職員は学校を挙げて全力で応援する。

◇校訓

「誠実」 何事においても誠心誠意をもって取り組む心を大切にする。

「謙虚」 素直な心で自分を見つめ、学びの姿勢を大切に、自己の向上に努める。

「努力」 文武両道のもと、学問や運動・芸術を通して人格形成に一生懸命に励み、切磋琢磨する。

2. めざす児童像

- 素直で明るく、元気よく挨拶ができる、礼儀正しい児童
- 夢を持ち勉強や運動・文化活動に意欲的に、粘り強く取り組むことができる児童
- 読書に励み思慮深く、思考力があり自分の考えをきちんと発言したり、他の意見にも謙虚に耳を傾けたりすることができる内面的な深みのある児童
- 自分を律し他者への思い遣りがあり、コミュニケーション力や、問題解決能力に優れたリーダーシップの発揮できる児童
- 正義感が強く忍耐力や根気強さがあり、常に感謝の気持ちを忘れない児童

3. 令和6年度の重点目標

(1) 管理職体制の強化

昨年度より学校体制を強化するために、管理職を5名体制とした。
管理職がより機能するよう連携を密にし、役割を分担していく
学校を取り巻く環境は、年々複雑になっているため、学校体制を強化し、
同時に危機管理体制の強化を図る。

(2) 小・中・高12カ年一貫教育の充実

小・中・高の連携を図るために、昨年度立ち上げた「小・中・高連携プロジェクトチーム」の活用を図る。

アフタースクールの「アドバンスド理科」を高等学校の教員が担当する出前講座の取り組みを、昨年度「アフタースクール社会」にも広げた。第6学年への出前授業も継続的に実施する。

また、中・高等学校の「体育祭」や「紫峰祭」に高学年が学年として参加していたが、中学年にも広げる。

「卒業生と語る会」や「授業交流」も継続する。

教員同士についても、小・中・高の授業見学週間も設定する。

以前より課題となっていた、「児童会と生徒会の連携」の方策を探りたい。

(3) 探究学習の充実

これまでの「総合的な学習の時間」及び「土曜授業日」の学習を昨年度「探究学習」を主軸とした内容に組みかえた。

探究学習とは、児童自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく中で、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する学習活動のことをいう。探究学習では、児童の思考力や判断力、表現力などの育成を目的として

いる。

これまでの学習が「調べ学習」を中心としたものとなっており、発表も調べ上げたものの発表となる傾向があった。

そこで、児童の興味関心に応じて、「疑問に思ったこと」「興味を持ったこと」などを中心にテーマとして取り上げ、探究学習を充実させる。

探究学習の発表の場として、「EDT」を位置づける。

学年内での推進の中心は学年部長が行い、全体の推進は探究学習推進部長が行う。

I C T教育については、探究学習のツールとしての位置づけとする。

(4) 英語教育の充実

これまで「使える英語」の指導を主目標とし、入学時から習熟度に配慮した学習（3グループ編制）を展開してきている。1～3年生の習熟度別の指導によって、個々に応じた指導による底上げができ、レベルの差が縮まっていることから、今年度より、習熟度別指導を3学年までとする。児童同士が互いに教え合う活動を通して、学び合いを実践する。

「読む」「聞く」活動重視の学習に「話す」「書く」活動を加えることで、アウトプットを意識して、4技能の定着を図る

校外語学研修としては、**British Hills**（福島県）での親子英語合宿実施。今年度は、**TOKYO GLOBAL GATEWAY** を活用した日帰り英語研修を第5学年の校外学習として実施する。

また、海外語学研修では、オーストラリアでの語学研修（7月）、イギリス・アカデミック・ツアー（3月）を継続する。ハワイグローバルツアー（12月）も昨年度に引き続き実施。